
人魚姫

和紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人魚姫

【Nコード】

N4257N

【作者名】

和紀

【あらすじ】

アンデルセン童話、人魚姫の別解釈です。

人魚の歌

私は人魚。
暗い海の底で生まれ、そして育った。

“決して人間に姿を見せてはならない”

これは物心ついた頃からの教え。
だけどこの海には私の居場所はない。
優しい家族、友達に囲まれてはいるけれど最近私にはある一つの疑問が付き纏って消えないのだ。

「何の為に生きているの？」

緩やかな波に揺らぐ磯巾着に問い掛けても、彼はさわさわと笑うだけだった。

ある日の夜、私は人気の無い場所で歌を歌った。
誰にも言えない感情を全て音に変えて。
歌っていると何故か涙が溢れては止まらなかった。
気持ちを言葉で伝える事が下手な私にも歌がある。
そう気付けた事がとても嬉しかったのだ。

「お前の歌は聴くものを癒す力があるね」

泣きながら歌う私の背後から突然聞こえた声に驚いて振り返るとそこには黒一色のマントの様な衣服を纏った男が立っていた。

「貴方は…？」

「お前は歌え。その歌で何れ数多の人を救える筈だ」

私の質問には答えず彼は意志の強い口調でそれだけ言うと姿を消してしまった。

でも何故だろう。

見ず知らずの彼の言葉が頭に焼き付いて離れない。

その日はそのまま眠れず、ずっと遠い水面を眺めていた。

それから幾日か経ったある日、いつもは穏やかな波がまるで怒ってでもいるように強く揺れて目が覚めた。

どうやら海上が荒れているらしい。

それにしてもここ迄荒れるのは何時以来だろうとふと頭上を見上げると人間の男が力なく沈んで来るのが見えた。

“助けなきや”

何故か咄嗟にそう思った私は彼を抱いてひたすら海面を目指した。

そして近くの岸部に彼を寝かせたが意識を戻す気配はない。

これ以上どうして良いか悩みあぐねた末私はある言葉を思い出した。

お前の歌は人を癒す力がある。

そして私はまだ雨や雷で荒れている岸部で歌った。

どうか彼を助けて下さいと、祈りを込めて。

「……………ここは、…？」

どれ程歌い続けただろう。

今まで微かにも動かなかった彼が急に哽せ飲んだ水を吐いて意識を取り戻したのだ。

「あ…、」

その時私はやっと幼い頃からの掟を破ってしまったことに気付いた。そして「ありがとう」と優しく微笑んでくれた彼に一言も返せぬまま急いで海底へと泳いだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4257n/>

人魚姫

2010年10月25日21時30分発行